

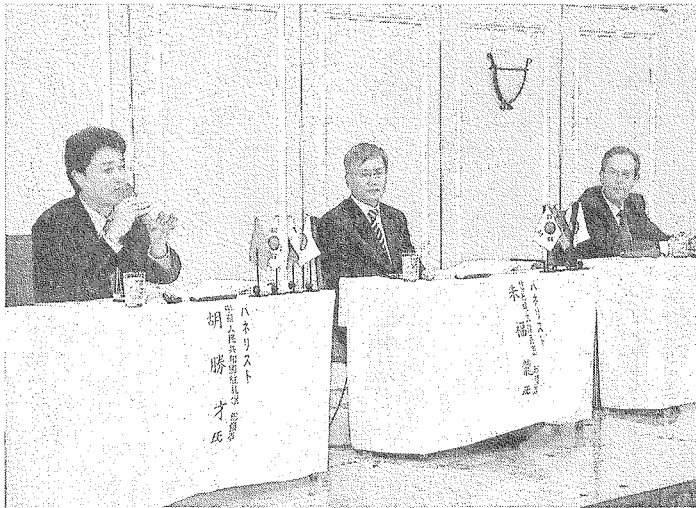
第3種郵便物認可

海外進出や後継者問題学ぶ

札幌

道中小企業家同友会 1000人参加研究集会

北海道中小企業家同友会主催の全道経営者「共育」研究集会が15日、札幌市内のホテルなどで始まった。全道各地から過去最多の約千人の中小企業経営者が参加し、20分科会で海外進出や後継者問題について考えた。



道内の中小企業は16万6千社で企業数の99・8%を占めるなど重要な位置を占める。三神純一代表理事は会場で「中小企業は5年、10年先を見据えて学び、経営体力を強化する必要がある」と集会の意義を強調した。

「海外から見た北海道」をテーマとした分科会では、中国と韓国、ロシアの各総領事(左から)

道内の中小企業は16万6千社で企業数の99・8%を占めるなど重要な位置を占める。三神純一代表理事は会場で「中小企業は5年、10年先を見据えて学び、経営体力を強化する必要がある」と集会の意義を強調した。

「海外から見た北海道」をテーマとした分科会では、中国と韓国、ロシアの各総領事(左から)

ロシアの各駐札幌総領事が討論した。

中国の胡勝才総領事は「中国企業は国内市場の要望に技術力が追いつかず、高い技術を保持した日本の企業と協力を望んでいる」とし、「道内にも環境保全や省エネの分野で高い技術力のある企業は多いので、積極的に交流すべきだ」と訴えた。

ロシアのワシーリー・サプリン総領事は「道内企業は、ロシアは法律や文化が違うと言っ

が、相談に乗るのでもっと積極的に連携を」と呼びかけ、韓国の朱福龍総領事は「韓国人は短気なので、商談の時は留意して」と助言して会場をわかせた。

後継者問題を話し合う分科会では、子息でない幹部に社長を譲った函館電子(函館)の林洋一会長が「継承後は社長を社長として扱い、任せることが大切」と強調。父親が社長を務める北冷蔵(同)の西川公人専務は「時代の変化に対応できるよう勉強しなくてはならない」と後継者の心構えを語った。

このほか、釧路公立大の小磯修二学長が地元の人材や資源を地域内で活用して域内経済の活性化を図る「産消協働」について講演した。研究集会は16日に全体会議や記念講演を行い、閉会する。

新青森開業

函館でSL運行へ

JRが冬の臨時列車

JR北海道は15日、冬の臨時列車(12月5日～来年2月)の運行計画を発表した。12月4日の東北新幹線の新青森開業に合わせ、「SLはこたてクリスマスファンタジー号」(函館～大沼公園)が新登場。特急「白鳥」(函館～新青森)も1往復増発し、新幹線との接続の利便性を向上させる。臨時列車は昨冬より13本多い942本。

「SLはこたて」は、イベント「はこたてクリスマスファンタジー」開催中の12月4日～同25日の金、土、日曜・祝日の計11日間、1日2往復を運行。車内にクリスマスリースを飾り、乗務員はサンタクロース姿など趣向を凝らす。例年12月に運行している札幌～小樽間のSL列車は運行しない。

臨時の「白鳥」は12月23日から2月20日まで毎日運行する。

「旭山動物園号」(札幌～旭川)は、12月18日から2月27日までの週末を中心に運行。「ニセコスキーエクスプレス」(札幌～ニセコ)は、12月23日から2月20日まで毎日運行する。